卒業論文

音楽フェスティバルの社会学

2015 年度入学
九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野

2019 年 1 月　提出

要約

近年、全国各地で様々な規模の音楽フェスティバルが開催されている。本研究は、これまでにそのようなローカルな音楽フェスティバルの主催者側の研究が少ないことに注目し、音楽フェスティバルの主催者が開催するに至るまでの経緯、地域の中で行われるローカルフェスの新たな役割、そして音楽フェスと行政との支援の在り方について調査した。鹿児島で開催されているローカルな音楽フェスティバル、X フェスティバルを調査対象とし、鹿児島県だけでなく、音楽が産業化した街である福岡市の行政支援についても調査した。

第 1 章では、以上で述べた本研究の背景と目的について述べている。

第 2 章では、音楽フェスティバルの定義、日本においての音楽フェスティバルの変遷について先行研究を整理した。その結果、特に大型フェスの参加者側に注目した研究は多くあるものの、主催者側に注目した研究は少ないことが分かった。

第 3 章では、調査方法の概要と、調査対象である X フェスティバルの概要について述べた。

第 4 章では、そのローカルな音楽フェスティバル X フェスティバルの主催者であるA氏の聞き取り調査の分析・考察を行った。主催者である A 氏が主催者となるまでの経緯と、その音楽フェスティバルの特徴、困難について調査したが、A 氏がそのローカルな音楽フェスティバルを開催するまでの経緯には、大型フェスへの違和感と、東日本大震災の発生による意識変化が大きいことが分かった。また、A 氏の主催する音楽フェスティバルの特徴として徹底したローカル主体のフェスであることがわかった。そして、繋がりが深いからこその困難もあった。

第 5 章では鹿児島県における音楽フェスティバルと行政の支援の在り方について調査した。その結果、鹿児島県においては音楽フェスティバルを文化担当部署が助成金を出すなどして支援しており、近年大型フェスが増えたこともあり、音楽フェスに観光としての目も向けられつつあることが分かった。

第 6 章では、福岡市における音楽産業化の流れについて整理し、音楽フェスティバルへの行政の支援の在り方について調査した。その結果、福岡市においては音楽フェスティバルへの支援を主にコンテンツ産業振興課が行い、音楽フェスティバルの広報支援をしてさらに街の魅力を発信することに取り組んでいることが分かった。第 7 章では、以上を受けて、最後にローカルな音楽フェスの新たな役割と、行政の支援の在り方について述べた。

目次

1. はじめに..... 1
1.1 問題意識のきっかけ..... 1
1.2　研究の背景と目的..... 2
2.　先行研究での定義づけと整理..... 4
2.1 音楽フェスティバルの定義..... 4
2.2 音楽フェスティバルの変遷..... 4
2.2.1 音楽フェスティバルの起源..... 4
2.2.2 音楽フェスティバルの転換点..... 5
2.3 世代文化としてのフェス..... 7
2.4 音楽フェスの新たな展開..... 8
2.5 先行研究のまとめ..... 8
3.　調査概要..... 10
3.1 調査内容..... 10
3.2 X フェスティバルの概要..... 11
4. X フェスティバル の分析・考察..... 13
4.1A 氏が主催者になるまで..... 13
4.1.1 音楽の仕事に携わりはじめるきっかけ..... 13
4.1.2 鹿児島から東京へ..... 15
4.1.3　大型フェスに対する違和感..... 17
4.1.4 東日本大震災による意識の変化..... 19
4.1.5　小括..... 22
4.2　X フェスティバルの特徴..... 23
4.2.1　飲食店とのつながり..... 23
4.2.2　スポンサーとのつながり..... 24
4.2.3　サポートチームとのつながり..... 26
4.2.4 徹底したローカル主体のフェス..... 26
4.3　「つながり」があるからこその難しさ..... 27
4.4　継続へのこだわり..... 28
5.　鹿児島県の行政支援の分析・考察..... 30
5.1 鹿児島県の文化方針..... 30
5.2 鹿児島県の音楽フェスティバル..... 30
5.3 音楽フェスティバルへの行政による支援と後援..... 31
5.4 小括..... 33
6 福岡市の行政支援の分析・考察..... 34
6.1 福岡市の経済、観光、文化方針..... 34

6.2 福岡市の音楽産業化の変遷 34
6.2.1 福岡の都市形成 34
6.2.2 産業化の始まり 35
6.2.3 フォークからロックへの転換 36
6.2.4 新たなムーブメント 36
6.2.5 音楽産業の現状 37
6.3 福岡市の行政支援 37
6.4 行政支援の限界 40
6.5 小括 40
7 総合的な考察 42
7.1 ローカルな音楽フェスティバルの新たな役割 42
7.2 ローカルな音楽フェスティバルと行政支援の在り方 42
参考文献 45
謝辞 46